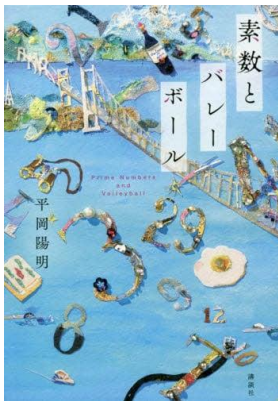


# 職員オススメ本 2月



「素数とバレーボール」 平岡 陽明／著 講談社

県立岸高校を卒業してから二十数年経ち、41歳の誕生日を迎えた朝、北浜慎介の元に高校時代のバレー部で同窓生だった里中灯、通称ガンブ君から奇妙な内容のメールが届く。その内容は、高校三年生の夏に約束した通り500万ドル支払うが条件があり、音信不通のチームメイトを探し出すこと、また、5万年後に岸校バレー部を再結成することになったら入部するということであった。

慎介は同じ内容のメールが届いたバレー部メンバーと集まり、半信半疑のまま真相を解明するため動き始める…。



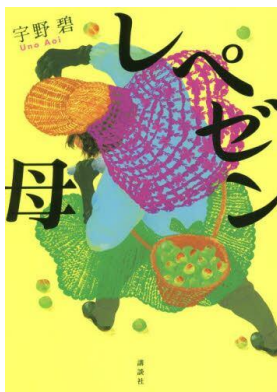
「66歳、動物行動学研究者。」

ようやく「自分」という動物のことがわかってきた。」

竹内 久美子／著 ワニブックス

著者の経歴は、京都大学理学部卒業後同大学院に進み、博士課程を経て著述業に。専攻は動物行動学。経歴を見ると子どもの頃から抜群の成績、友達も多く、先生から気に入られ、常に優等生。大学入試も一発合格と、挫折や孤独、負の要素がまったくないだろうと想像するのではないだろうか。ところが実は、神経質で要領が悪く、取り越し苦労が多い。挙句、何度もメンタルが崩壊した…。

本書は、著者がこれまでを振り返った「人生編」と、人生から学んだことを述べた「考察編」の2つに分け、挫折人生から得た教訓やものの見方などについて記しており、また動物行動学の知識も満載な一冊です。



「レペゼン母」 宇野 碧／著 講談社

和歌山で亡き夫の後を継ぎ梅農園を営む深見明子。彼女には一人息子の雄大がいるが、昔から様々な問題を起こした上に、多額の借金と妻を実家に残し失踪してしまった。

育て方を間違ったんだろうかと思い悩む明子だったが、偶然、雄大がラップバトルの大会に出場することを知る。本音で語り合う最後のチャンスだと感じた明子は雄大と対戦すべくラップバトルへ出場することに…。

小説現代長編新人賞を受賞した爽快で笑えるデビュー作です。